

DP	演習内容	到達目標\判定	59	60	70	80	90
			D	C	B	A	S
D	C言語復習	情報通信工学演習IおよびIIで習得したC言語プログラミングを活用するための基礎的な能力を養うことができる。	情報通信工学演習I, 情報通信工学演習II, 電気回路Iの知識習得の不十分さのために、右の6項目のCに記された項目を1つでも達成できていないと判断した場合、もしくはレポートの提出が認められなかった場合、	条件分岐や繰返し構文を用いた簡単なプログラムを作成できる。	関数を利用したプログラムを作成できる。	ポインタを利用したプログラムを作成できる。	左の6項目が全てAであり、指定された課題に対して、ほぼ正解している。
	TCP/IPネットワークプログラミング	TCP/IPネットワークの基礎について学習できる。		ネットワークに関連したLinuxコマンドを使用することができる。	C言語で書かれたTCP/IP通信プログラムを実行できる。	C言語で書かれたTCP/IP通信プログラムを理解し、修正することができる。	
	数値計算プログラミング	計算機を用いた数値計算のための基礎的技術を習得できる。		数値計算のためのプログラムを作成できる。	動作するプログラムを作成でき、数値計算を実行できる。	正しい数値計算結果が得られるプログラムを作成し、数値計算を正しく実行できる。	
	誤差の法則	与えられたデータに対して平均値や標準偏差を求めたり、回帰直線を求めることができる。		関数電卓や表計算ソフトを用いて課題に対する答を導くことができる。	物理量の単位や有効数字に配慮して答を導くことができる。	グラフを作成する問題も含めてほぼ全ての課題に対して正しく答を導くことができる。	
	計測機器の使用法 電気回路測定	電気計測機器の基本的な取り扱いを習得できる。		実験テキストを参照しながら、計測機器の基本的な操作ができる。	簡単な電気回路に対して特性の測定が行える。	簡単な電気回路に対して特性の測定を正確に行うことができる。	
F	レポート作成	実験レポートの書き方を習得できる。	演習内容をレポートにまとめ、指定された課題に対して回答している。	演習内容を分かりやすくレポートにまとめ、指定された課題に対して丁寧に回答している。	演習内容を分かりやすく、かつ見やすくレポートにまとめ、指定された課題に対して丁寧に回答している。	上のレポート作成に関するA, B, Cの判定は適切にレポートを提出していることが前提である。	

- D 情報工学活用力  
情報工学の基礎分野に関する知識とそれらを情報通信工学分野に活用できる思考力、判断力およびプログラミング能力を身に付けている。
- F コミュニケーション力  
論理的思考に基づいた、日本語による記述力、口頭発表力、討議能力、企画提案力、技術文書(和文、英文)の読解能力、外国語によるコミュニケーション能力を身に付けている。